

時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田 富一 氏

第 153 号

令和5年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第70回

栃木県幼稚園
教育研究大会

主催者挨拶

栃木県幼稚園連合会理事長

船田 弘和



本日は誕生百五十年を迎えた我が栃木県の知事である福田富一様、栃木県議会議員史上最年少の議長として百十代の議長に就任された佐藤良様、またLRTの開通を間近に控えた佐藤栄一宇都宮市長様、その他栃木県内の重要な役職を担っていらっしゃる方々にご臨席を賜りまして、本日は第七十回栃木県幼稚園教育研究大会が宇都宮ライトキューブに場所を移して対面式で行えるということに大変嬉しく思います。



子どもたちを取り巻く環境も、そして私も幼稚園・認定こども園を取り巻く社会的な環境も大きく変化をしようとしております。この様な中で、本研究大会はたくさんの方の研究者の先生方が検討をかさね、「新しい時代を伸ばす

やかに生きる」をテーマに掲げての開催となりました。遊びの中で子どもたちは認知能力と非認知能力を共に育てていくことが大切であります。二〇四〇年には現在の仕事の四十八%がAIに置き換わると言われております。



これは人として「生きる」と言っている本質に大きく影響を与えていると思われま

す。「新しい時代を伸ばすやかに生きる」という研究テーマはまさに子どもたちの未来像につながることでしょう。

最後に今大会の運営にあたりましては、担当委員会の先生方の非認知能力の高さに感心いたしました。自分たちが何をすべきかを皆さんが意識しながら会場が出来るようになっていく。そんな皆さんは栃木県の財産だと思います。

来年はここ宇都宮ライトキューブにおきまして、関東地区教育研究大会が栃木県で開催されます。是非とも先生方には栃木県の魅力と、栃木県の教育力・スキルの素晴らしさをしっかりと知らしめる大会となりますよう、ご協力お願いいたします。

来賓祝辞

栃木県知事

福田 富一



我が国の子育て環境は、少子化や核家族化の進行などにより大きく変化してきており、共働き家庭の増加や、就労形態の多様化によって、就学前の教育・保育施設の利用率は年々増加しております。そのような中で、中心的な役割を果たしておられる幼稚園や、認定こども園の皆様が一堂に会し、知識や技術の習得の場として本大会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。

県では、人口減少問題の克服に向けて「とちぎ創生15（いちご）戦略第二期」に基づき各種施策を推進しております。出生数を昭和四十八年前後の第二次ベビーブームの時期と比較をしますと、現在は三分の一、三万人が一万人を切る状況となっております。この少子化の深刻さが進行している状況を踏まえ、今月新たに「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」を策定いたしました。「若者の結婚の希望をかなえる」と、「理想のとも働き」とも育てを実現する「とちぎ」子ども・子育て世帯にやさしい「とちぎ」の三つの目指すべき姿を定め、合計特殊出生率の改善や人口減少問題の克服に向けて、結婚・出産・子育てといった各ライフステージに応じた切れ目のない支援を市町・関係機関と連携を図って取り組んでまいります。

このライトキューブ宇都宮につきましては、昨年十一月開業しました。宇都宮市が中心となつて計画を進め、隈研吾氏の設計で「集う・地産地消・環境」の三つをコンセプトにこの建物群が出来上がったところですが、「集う」といふことも若い女性がこの建物群に集まるという想いを込めたそうです。県産の木材や石などを使っておりますし、さらにはLRTを中心に環境に配慮した建物やまちづくりが進められているところです。

栃木県誕生百五十年の節目の年に生まれましたが、新しい時代をのびやかに生

きる子どもたちがここに残ってくれるように、社会の宝の子どもたちが心豊かに育って明るく生き生きと成長できるように、幼児教育のさらなる振興発展に努めてまいりますので、引き続き皆様方のお力添えをお願いいたします。

最後となりますが、本大会が更り多いものとなりますよう、ご期待を申し上げ、栃木県幼稚園連合会がますますご発展されますことを皆様のご健勝と併せてお祈り申し上げてお祝いの言葉といたします。おめでとうございます。

その他、栃木県議会議長 佐藤良様よりご祝辞をいただいた。

表彰

「永年勤続表彰」

五十年表彰	一名
四十年表彰	十二名
三十年表彰	三十名
二十年表彰	八十三名



講演会

講師

独立行政法人国立特別支援総合研究所
上席総括研究員（兼）
センター長
久保山 茂樹氏



インクルーシブな保育で「共生社会の担い手」を育む「多様性を理解し尊重しながら」

公演会

講師

テーマ

ケチャップマヨネーズ
遊べる★コンサート公演
会々々大人も子ども
も同じ目線の仲間になるには？





第70回栃木県幼稚園教育研究大会 分科会

今年度の分科会は、ライトキューブ宇都宮を中心に、ホテルニューイタヤ、栃木県総合文化センターを会場として、三日間に分けて開催された。

「対話」を通した学びによって参加者それぞれが自分の課題に向き合い、保育の振り返りや、今後の目標を明確にする機会となった。



今だからこそ知りたい免疫と感染症予防について (67名)

助言者 岡田 晴恵(白鷗大学・教授)

コーディネーター 渡邊江身子(認定こども園いずみ幼稚園・主幹教諭)



1
分科会

保育における安全管理・危機管理 (教職員向け) (50名)

助言者 斎木 里奈(株式会社こども保育環境研究所・部長)

コーディネーター 花岡 宏樹(認定こども園梅ヶ原幼稚園・副園長)

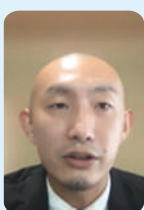


2
分科会

保育における安全管理・危機管理 (管理者向け) (※リモート(Zoom)のみ) (48名)

助言者 斎木 里奈(株式会社こども保育環境研究所・部長)

コーディネーター 栗原 賢臣(認定こども園くにや幼稚園・教頭)



3
分科会

保育の質を高める保育記録とは ~健やかな成長を願って、子どもの育ちを丁寧に読み取る~ (52名)

助言者 河邊 貴子(聖心女子大学・教授)

コーディネーター 岡本 純世(認定こども園すみれ幼稚園・園長)



4
分科会

分科会	話題提起者	日程
1	池田 律子 (聖母幼稚園・副園長) 酒井 育美 (認定こども園仁神堂幼稚園・保育教諭)	8/25
2		8/23
3		8/24
4		8/24
5	小谷 直枝 (認定こども園育成館幼稚園・主幹保育教諭) 菊澤 有里紗 (認定こども園佐野たちばな幼稚園・保育教諭)	8/24
6	高橋 香織 (認定こども園第二ひかり幼稚園・保育教諭) 大森 奈津紀 (くろばね保育園・保育士)	8/24
7	山本 花奈 (認定こども園吹上幼稚園・保育教諭) 仲江川 祐香 (認定こども園ふじおか幼稚園・保育教諭)	8/25
8	青木 千明 (認定こども園せんだん幼稚園・保育教諭) 野口 結花 (にのみや認定こども園・保育教諭)	8/24
9	平林 聡美 (みふみ認定こども園・副主任保育教諭) 片山 千晶 (認定こども園釜井台幼稚園・主任)	8/25
10		8/24
11	爲川 菜々美 (今市幼稚園・教諭) 山本 美空 (認定こども園今市中央幼稚園・保育教諭)	8/23
12	青柳 知恵子 (晃望台幼稚園・副主任) 本村 美雨 (晃望台幼稚園・教諭)	8/23
13	中島 麻紀 (宇都宮市立今泉小学校・教諭) 湯澤 睦恵 (日光市立日光小学校・教諭)	8/24
14	星 淳子 (作新学院幼稚園・教諭) 石江 香里 (さくら認定こども園・主任保育教諭)	8/23

リトミック再考 (76名)

10
分科会

助言者 佐藤 邦子(東京家政大学・准教授)
コーディネーター 井上 智賀(幼保連携型認定こども園旭幼稚園・園長)



同僚性を育む“語り合い・学び合い” (63名)

5
分科会

助言者 岡 健(大妻女子大学・教授)
コーディネーター 大島絵理子(呑竜クローバー保育園・施設長)



子どもの主体性を育てる保者かわり方 (113名)

11
分科会

助言者 田淵 光与(宇都宮共和大学・教授)
コーディネーター 大嶋 裕(認定こども園今市中央幼稚園・理事長)



乳児保育

～子どもの発達・発達と保育者の関わり～ (75名)

6
分科会

助言者 高橋 美保(白鷗大学・名誉教授)
コーディネーター 栗田 英子(認定こども園黒羽幼稚園・園長)



保護者と連携して子どもの成長を見守る為に (101名)

12
分科会

助言者 穴戸 良子(作新学院大学女子短期大学部・准教授)
コーディネーター 青柳 貴也(晃望台幼稚園・園長)



乳児期から幼児期への育ちの道筋を考える ～子育て支援の視点を交えて～ (92名)

7
分科会

助言者 市川 舞(宇都宮共和大学・准教授)
コーディネーター 堀 好美(認定こども園岩舟幼稚園・副園長)



小学1年生の取り組みを知り、 幼小の架け橋期を考える (88名)

13
分科会

助言者 高根沢伸友(栃木県幼児教育センター・指導主事)
コーディネーター 山崎 英明(認定こども園釜井台幼稚園・園長)



配慮の必要な幼児に寄り添う支援を考える (125名)

8
分科会

助言者 鈴木 智恵(栃木県立のざわ特別支援学校・教諭)
コーディネーター 佐々木桐子(萌丘幼稚園認定こども園・園長)



預かり保育・長時間を考える (60名)

14
分科会

助言者 松山 洋平(和泉短期大学・教授)
コーディネーター 石戸 奈緒美(みふみ認定こども園・副園長)



子どもの内面を理解する保育者を目指して (122名)

9
分科会

助言者 田代 幸代(共立女子大学・教授)
コーディネーター 小倉 庸寛(吉田保育園・園長)





研修会だより

栃幼連 設置者・園長経営研修

期 日 令和五年六月二十九日(木)

会 場 ホテルニューイタヤ(桜の間)
八十名

参 加 (うちリモート参加 四十二名)

テ ー マ 「幼稚園・認定こども園の課題と展望」不確実社会で求められるパーパス運営について

講 師 学校法人マハヤナ学園・認定こども園マハヤナ幼稚園
理事長・園長 **石田 明義** 先生



全日本私立幼稚園連合会政策委員会副委員長をはじめ、全国園長・設置者研修大会で研究発表をされるなどの経歴を持つ石田明義先生をお招きし、興味深く有意義な研修となった。

ヒトコト 人口減少、少子化で問題が山積み
【問題…入園園児数の減少】

全国出生数最小八十八万人割れ・出生率最低一・二六 我が国の人口は急減する局面。

三歳児入園園児減少の対応策→〇・一・二歳児からの就園を本格化、小規模保育施設等の整備検討、三号認定員の増員検討など。※育児困難の未就園児、全国で約百八十二万人

【問題…十一時間無償化】

諸外国の幼児教育無償化時間↓イギリス三時間、フランス四時間、ニュージーランド四時間、韓国三〜五時間、日本十一時間。過度な福祉ニーズに軸足を置いた労働政策の傾向が強い。愛着障害や低い自己肯定感の温床。児童虐待

の増加。我が国のこどもの自殺数が過去最悪。検証が必要ではないだろうか？

【その他の問題】

①厳しい園経営状況 ②保育人材不足 ③不適切保育問題 ④特別支援児増加など。

その他、Q.なぜあなたの園は存在しているのだろうか？ Q.「どのように」ではなく「なぜ」？ Q.社会において、どのような責任を果たすのか？つまり、自園の独自性を、社会でなくてはならない存在意義としてあらわすこと(パーパス)が大切であることが述べられた。



第一回 保育セオリー講座

期 日 令和五年六月十五日(木)

会 場 コンセーレ(アイリスホール)

参 加 百二十七名

内 容 特別な配慮を必要とする幼児の保育くみんなが特別みんな

で育ちあう保育実践

講 師 栃木県幼児教育センター
副主幹 **黒川 貴広** 先生

ヒトコト 多様性の社会と言われている今、子どもたちの意識もそれが当たり前のようになってきている。社会がグ



ローバル化し、さらに先行不透明になってきたなか、これから必要なのが多様性とインクルーシブだろう。障害のある子が集団の中で担う力を養うことが大切だが、障害のある子が一緒に生活するなかで、他の子にとってもそれが必要な経験である。生活や遊びを通

して十分に経験をさせ、一人ひとりが特別、あの子はあの子という感覚を育てることが大切になる。



このようなことを踏まえ、みんなが育ちあう保育を実践するにあたり、まず「情報」「知識」「知恵」の違いを考えると、障害のある子で考えれば「情報」は診断名、「知識」はこだわりがあったらこうする等の対処の仕方である。このようなことは研修などで身につくが、同じ障害名であっても全部が同じようにいかないし、取り巻く保育者や子どもによっても違ってくる。そこで「知恵」までもっていかないと保育がまわっていかなくなる。

「知恵」を導き出すために園内研修の活用を勧めたい。自園の目指したいやり方、自園の保育者だからやるやり方を皆で話し合うことが必要である。担当した保育者が一人で抱え込まずみんなが話し合うことが大切で、参加した保育者もそれによって妥当な保育を確認できるのではない。



園内研修の教材には、黒川先生が文科省の委託研究の作成委員として作った「特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実」という冊子が紹介された。先生はこの冊子を、子どもだけでなく保育者も楽しくかかわることができるようにという思いで作成された。配慮が必要な子



は特別に指導しなくてはと思うが、基本は周りの子と同じで、幼児期だったら味わってほしい生活であり、そのなかでの遊びを保証することが大切で、その子の行動を受け止め、それを先生が楽しめるかが子どもの主体を大切にすることになる。周りと同じようにできるために手助けをするのではなく、その子らしい遊びを深めてあげることが大切である。



教師用資料として「障害のある幼児と共に育つ生活と指導」(文部科学省HP掲載)が久しぶりに改定となって発行された。幼児教育の基本となる重要なことが書かれているので、先に示した園内研修資料と共に活用してほしいとのことだ。

後半は、実際に園内研修の教材を使いワークを実践した。実際のエピソードや映像を使い、参加者がグループごとに意見の交換なども行った。

コロナウイルス感染症の扱いが、五類になり、久しぶりの対面の研修で、興味深い内容であったこともあり大勢が参加して、活発な意見交換ができていた。日々の保育が楽しくなるために、園内研修を有効に活用してほしいという黒川先生の強い思いが伝わってきた研修だった。

第二回 保育セオリー講座

期 日 令和五年七月十二日(水)

会 場 コンセーレ(アイリスホール)
参 加 九十九名



思いやりを題材に、基盤となる愛着形成や、段階を経て発達することの重要性、子ども理解など、多岐にわたって再確認できた研修となった。

テーマ 「思いやりの心を育てる」子どもの発達と保育者の関わり」

講師 乳幼児研究者
帝京短期大学子ども教育学科
特任教授 高橋 かほる 先生

思いやりとは、「相手の立場に立つて相手の気持ちを汲む心」である。発達過程において、愛着形成を基に、共感性、模倣による自発的な思いやり行動、自己主張と葛藤体験を通じて他者への気づきが育つ時期。また、情緒的な共感性をもった自発的な思いやり行動がみられるなど、人と関わりながら、道徳性・規範意識の芽生えを伴い段階を経て育まれる。思いやり行動を通して展開される他者理解や対話、葛藤、思考の機会が生きる力の素ともなる。その展開時の関わりについては、子どもをフレーム化しないこと、「いい事といけない事」と二分化した価値観ではなく、対話から共通した価値観を導き出すこと、対話では一人ひとりが自分事と捉え、さまざまな考えに触れ、自分の頭で考え決断する機会となるよう配慮すること、思いやり行動は、表出する「行動」だけでなく、「気持ち」に重点を置き捉えることなど、それぞれにエピソードを交えお話しくださったため、子どもの様子が目に浮かぶようであった。



第二回 〇・一・二歳児研修

期日 令和五年六月十九日(月)

会場 リモート

参加 百四十九名

テーマ 「〇・一・二歳児の保育」乳幼児の心と脳の発達から育ちを捉える」



講師 京都大学大学院教育学研究室内和政子先生



子ども 子どもの脳は、大人の脳の小型版ミニチュア版ではない。生物としてのヒトは環境の影響を受けながら長い時間をかけて脳を発達させる。特に脳発達の初期感受性期(乳幼児期)の環境保証は「必須」で、その後の発達に直接的に影響する。



「〇」ナ禍が乳幼児の心と脳の育ちに与えた影響は、「マスクをした」他者との日常によって、「脳発達の感受性期」に必要な身体を使った体験と心の育ちや「視覚野・聴覚野」の神経ネットワークの形成に大切な表情全体を介したコミュニケーションなどが十分に得られないリスクである。また、人との関わりが希薄になったために地域や家庭での「共同養育」が困難になり、園が共同養育の場となっている。

「新しい生活様式」によってA～などが発達し身近で利用しているが、子どもには、直接的なコミュニケーション(アタッチメント)で育まれる内受容感覚が最も重要である。

乳幼児期の心と体、脳の育ちには、心地よい身体内部感覚と同時に感じる環境からの刺激、身体の体験が大切であることを学ぶ研修となった。

青年部研修会

期日 令和五年六月三十日(金)

会場 ライトキューブ宇都宮・四F (小会議室四〇三)

参加 十九名

内容 『少子化・園児減少時代に向けてた「三つの現状分析」』



講師 株式会社福祉総研 安岡 知子氏



子ども 少子化による子どもの減少が進む中、政府は新たな対策として「異次元の少子化対策」を今年初めに打ち出し、その内容である「こども未来戦略方針」が本研修の前に発表された。今回は少子化、そして今後の園運営に関わる情報分析の方法を、具体的な例を挙げて教えていただいた。



まずは何よりもホットな話題として、異次元の少子化対策、こども未来戦略方針、こども・子育て支援加速化プランについて説明があった。予想よりも早い少子化を、どのようにして食い止めるか。識者による考え方は様々だが、より一層少子化が進むことは確実であり、手当などの増額や給付の拡大、そして「保育士等の処遇改善等による教育・保育の質の向上」といった内容を詳しく聞いた。しかし、従前のものが増額されただけの改革にならないことを期待したい。

続いて、現在の園について少子化を見据えた経営をするにあたり、支出の見直しや職員の適正な配置、収入増の方策としての定員の適切な設定についての話を聞いた。



諸先生方にはご存じの内容であろうが、若手である青年部員には今後の園経営を考えるにあたって非常にわかりやすい内容であった。

令和五年度 新採研(宿泊研修)代替研修

期日 令和五年八月二日(水)

会場 パルティ(パルティホール・三〇一・三〇二・三〇四)

参加 総数百九十名

内容 選択活動内容 午前/午後

ア「〇・一・二歳児の保育」

イ「笑顔があふれるリズム遊び」

ウ「子どもと考えるあそび」

エ「造形あそび」

三十九名/四十五名

講師 青年部員及び青年部OG

新採研(宿泊研修)の代替研修として、四つの選択活動の中から二つの活動を選び、午前・午後に分けて四年ぶりに対面での研修が行われた。



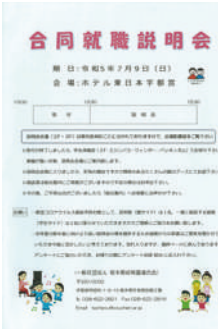


とちぎの幼稚園認定こども園等 合同就職説明会

期 日 令和五年七月九日(日)
会 場 ホテル東日本宇都宮
参加状況 参加園数 百四十五園
参加者数 三百四十一名
県内学生 三百十三名
県外学生 二十八名

栃木県幼稚園連合会が主催する合同就職説明会は、今年度で二十六回目を迎えた。昨年に引き続き、ホテル東日本での開催となった本説明会は、昨年同様マスクを着用しての対面形式の説明会となった。

今年度は、昨年と比べて学生の参加者数が五十一名増加した。新型コロナウイルス感染症の緩和の影響もあるだろうが、少子化が加速する中、前年度より参加者が増加したことは、まずまずの結果だったのではないだろうか。



参加者は興味のある園のブースに足を運び、各園の説明に真剣に耳を傾けていた。また、積極的に質問をする姿や和やかに談笑する姿も見受けられた。

二時間という制限時間のある中で面接ではあったが、園と学生の双方にとって実りのある時間であった。

昨今、学生の人氣が企業型施設や小規模保育施設に集中していることから、いかにして認定こども園や私学助成園の魅力を学生に伝えられるかに苦心された先生方も多かったのではないだろうか。近年では養成校が人材派遣会社と契約を結び、新卒の学生でも、最初から派遣社員として働くという選択をする例も増えていると聞く。自ら施設や会場に足を運ばなくても、インターネットを介して企業に登録し就職が決まってしまう時代に突入し、以前より働き手の選択肢が増え、働き方も多様化している。そのような中で従来通りフェイス・トゥー・

フェイスで複数の施設の説明や雰囲気一度に得られる合同説明会は、すべての参加者にとって非常に貴重な場であった。



第36回 全日私幼連関東地区 教員研修群馬大会

期 日 令和五年八月九日(木)～十日(木)
参加者 千三百一名(栃木県七十六名)
大会テーマ 「のびやかに生きる」
「子どもがいきいきと自分らしく成長するために」



であった。

大会初日の開会式では、次回開催県紹介として、当連合会の船田理事長より歓迎の言葉が伝えられた。開会式後の基調講演は、脳科学者の茂木健一郎氏が、大会のテーマを演題として登壇した。



二日目のフォーラムで、栃木県は、共立女子大学家政学部児童学科教授の田代幸代先生をゲストに迎え、「子どもの内面を理解する保育者を目指す」というテーマで研修を進めた。

コーディネーターは、吉田保育園の小倉庸寛先生。問題提起者は、みふみ認定こども園副主幹教諭の平林聡美先生と認定こども園釜井幼稚園主任の片山千晶先生であった。



スクールバス安全運転研修会

期 日 令和五年八月三日(木)
会 場 コンセーレ(大会議室)
参加者 百三十三名
テーマ スクールバスの交通安全教育
講師 (株)ジャパン・リリーフ 安全送迎サポート課 課長 吉田 努氏

本研修会では、園児の見落とし防止に関わる安全装置の設置義務化を含め、大きく四つの視点から「安全意識」に焦点をあてた講習が行われた。

まず解説されたのは、アルコールチェックの義務化についてであった。今年の十二月から、運転の前後に機器の使用期限の再確認や準備をしていく時期であることが述べられた。

次に、日常点検と運転前点検について、法律の確認とあわせて、運転前に点検するポイントが紹介された。運転技術と点検技術はどちらも重要であり、外回り、エンジンルーム、運転席から常に確認意識を持ちたい。

三つ目に、車内置き去り防止の安全装置について、実際に作動している車内の動画を見ながら具体的な注意点が示された。



最後は、見られている意識や園名がわかる車に乗車している自覚についての注意喚起と助言があり、近年のSNSや通報トラブルの事例とともに、心ある対応の重要性が述べられた。危険予知トレーニングでは、停止位置、路面からの情報、一時停止すべき場所を再確認しながら、安心・安全な運行意識を高め、研修会が終了した。





幼児教育センターだより



新規採用幼稚園教諭等研修

【第二日】

五月二十六日及び六月二十七日に、宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園で実施しました。保育参観を含めた研修は四年ぶりです。今年度は実際の子どもの姿から、環境の構成や保育者の援助について学ぶことができました。

新採者は、それぞれに指定されたクラスを固定で参観し、保育の中での名場面を捉え、共有すると共に、環境の構成や保育者の援助のポイントについて協議しました。一日を通して、「子どもたちの発想を大切に、更に発展させられるような環境づくりが大切だと感じた」「肯定的に物事を捉えて声かけしていくことが大切だと感じた」などの感想がありました。



【第三日】

七月二十六日に総合教育センターで実施しました。

午前中は人権教育に関する講話の他、幼児理解・園児の理解から始まる保育についての講話・演習を行いました。午後はグループに分かれ、十一名の指導助言者の下で、幼児・園児を理解するために大切にしたいことについての考えを深める演習を行いました。特に、指導助言者の経験に基づいた、心に響く話の中で、学びを深めることができました。新採者からは、「一人一人の良さや可能性に気付けるようにしていきたい」「その子にとってどのような経験が必要かを考えて関わっていきたい」などの感想がありました。



教育課程研究集会 第一日

六月十四日に実施しました。今年度の栃木県の研究主題は、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえ、「幼児教育と小学校教育との円滑な接続について」「幼児教育の質に関する認識の共有、家庭や地域との連携の在り方について」の二つです。

午前中は名古屋学芸大学ヒューマンケア学部長教授 津金美智子先生より、リモートで協議主題の解説をいただきました。

午後は、それぞれが自園で取り組む研究テーマについてアイデアを共有し、見通しをもてるよう、協議主題に係る具体的なテーマについての情報交換や協議を行いました。

受講者からは、「遊びの中で学んでいることを、地域や小学校などに伝えていく必要があると感じた」「他園の取組を知り、自園での取組を整理することから始めたい」「子どもたちの学びを見取る力を身に付け、学びに向かう力を育てていけるよう努めたい」などの感想がありました。第二日には、それぞれが取り組んだ研究テーマと具体的な実践について発表し合い、考察を深めていく予定です。



スキルアップセミナー

今年度は「教材の工夫」をテーマに、七月十八日に実施しました。幼稚園、こども園、保育所、小学校、特別支援学校から、計七十五名の参加申込みがありました。

午前中は、植草学園大学発達教育学部発達支援教育学科教授 入澤里子先生より「環境構成の基本」と題して講話をいただきました。



午後は、教材を工夫することについて講話・演習を行い、段ボールを素材に教材研究を行うという演習をしました。受講者からは、「ひとつの遊具でも工夫次第で様々な遊びができることを学んだ」「教材研究の楽しさ、大人が保育を楽しむことの大切さを改めて感じた」「環境をただ整えるだけでなく、子どもがどのようなことを経験するのかを踏まえていきたい」などの感想がありました。

子どもの学びを豊かにするための「教材の工夫」を、日頃の保育の中で実践してほしいと願っています。



★これからの研修★

トップセミナー ※オンライン開催

九月二十六日(公)

合同研修(幼小)

十月十七日(公) 三十日(月)

十一月二十一日(公)

幼児期の特別支援教育研修

十二月八日(金) ※第二日

新規採用幼稚園教諭等研修

十二月十九日(公) ※第九日

幼稚園等教職五年目研修

一月二十二日(月) ※第三日

中堅幼稚園教諭等資質向上研修

十月十九日(木) ※第五日

一月五日(金) ※第八日



詳細は「幼児教育センター研修案内」を見てほしいピヨッ



こども政策課だより

各種提出書類について

幼稚園運営費補助金交付申請書

○提出期限 十一月上旬（予定）

※令和五年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）については、十月初旬に事業計画書の提出をお願いする予定です。

その後、十月下旬を目途に内定通知を送付いたします。

交付申請書の提出に当たっては、内定通知の記載に基づき提出願います。

幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

（一）特別支援教育

○提出書類

ア 対象園児就園状況調査書

イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

ウ 対象園児である旨の判定調査書

○提出期限 十一月六日（月）

※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれかが必要となります。

専門医の診断書等の記載内容については、今年度から参考様式を作成し、その旨通知しましたのでご参考ください。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、

御留意願います。

（二）子育てランド事業

○提出書類

ア 子育てランド事業実施計画書
イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

○提出期限 十一月上旬（予定）

（三）わんぱく保育推進事業

○提出書類

ア わんぱく保育推進事業実施計画書
イ 預かり保育実施記録
ウ 保護者等への案内通知（写）

○提出期限 十一月上旬（予定）

※わんぱく保育推進事業については、一認定子どもが対象となります。新制度へ移行した幼稚園又は幼保連携型認定こども園において一認定子どもを預かっていない時間は算定から除くこととなりますので御留意願います。

各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上期限までに提出願います。

送迎用バスの安全装置の設置について

静岡県において、園児が送迎用バスに置き去りにされた大変痛ましい事案が発生してから、約一年が経過しました。

送迎用バスの安全装置の設置については、関係府省令等の所要の改正が行われ、令和五年四月一日に施行され、令和六年三月末までの一年間の経過措置として設定しておりますが、可能な限り早期に整備が完了するよう、お願いしているところです。現在も整備が進んでいない場合は、早期に完了してください。

令和五年十月～十二月までの事業予定

10月12日	資質向上研修（ECCQ公開保育）
10月17日	※合同研修（幼小）
10月19日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
10月23日	全日私幼 設置者・園長研修
10月24日	全国大会（山形県）
10月25日	保育テクニカル講座
10月26日	幼稚園教育振興の集い（真岡市）
10月30日	※合同研修（幼小）
11月1日	保育セオリー講座
11月7日	設置者・園長研修会
11月9日	全日私幼 関東地区代表者協議会（千葉県）
11月14日	※幼小接続推進者研修
11月21日	※合同研修（幼小）
11月24日	資質向上研修（視察研修）
12月1日	資質向上研修（幼小連携）
12月8日	※幼児期の特別支援教育研修
12月19日	⑨新採研（集合研修）
	※は幼児教育センター事業

慶事

●認定こども園今市中央幼稚園
創立五〇周年記念祝賀パーティー
令和五年九月三日

弔事

●上三川町 やしお幼稚園

理事長 猪瀬 成男 先生
令和五年六月二十九日 逝去

●佐野市 洗心幼稚園認定こども園

理事長 佐野 韶良 先生
令和五年七月四日 逝去

●小山市 認定こども園ひまわり幼稚園

前理事長 赤井 保 先生
令和五年七月三十日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

新型コロナウイルスが五類へと引き下げられ、以前の生活が戻りつつある。研修もオンラインではなく、対面での形式で行われるようになってきた。やはりその場での臨場感を感じ、実際に会って話をすることは、個人的にとっても嬉しい。園行事なども戻りつつある現状、楽しみな反面、まだまだ見極めながらの活動に試行錯誤な状況でもある。

社会的にみても、今、保育業界に向けられている目は厳しいものでもある。誤飲や遊具による事故、不適切保育など、メディアにおいて大きく取り上げられている。もちろん、注意喚起の意味も込めて、関心をもちてもらいたいという点においては大きい結構だと思う。ただ、異次元の子育て支援を行っていただく、保育士の人材不足も課題ではあるだろう。そのうえで保育業界のマイナスイメージがクローズアップされて、余計保育士不足に拍車がかかるのではないだろうか。もっと保育の素晴らしさや、幼稚園の先生と子どもたちとが楽しく過ごしている姿を、広報委員として伝えていきたい。

アフターコロナとして、世間が明るい方向に向かっているなかで、園行事や保育の在り方をしっかりと全うしていくことが、我々保育に携わる者としての務めだと思いたい。子どもたちのため、働く先生のため、新たに保育の道を目指す人たちのため、広報委員会を通して引き続き邁進していきたい。

（認定こども園鹿沼みどり幼稚園 橋本慎平）